

楽たま通信

令和元年度

No. 4

良城小
2019/04/15
増野

公称「良城クラブ」

吉敷地域の老人クラブの皆さんには、本校に大変な支援をいただいています。

今、行っている1年生の下校の見守り、秋の2年生のまち探検の付き添いは昨年度から始まった活動です。

入学当初の下校時の見守りは、1年生担任や専科職員だけではなかなか手厚い対応は難しく、毎年迷子になって学校に連絡が入る状況でした。

また、2年生のまち探検では、学年全体で行列をなしていくつかの場所を一緒に回るしかありませんでした。できるだけ多くの見学先を用意して児童の行きたいところへ行かせたいというダイナミックな活動形態を、学校運営協議会で浦田主任がお願いし、地域の老人クラブが実現してくださりました。

さらに、2月の昔遊びの後日、体育館で行った昼休み交流会では、老人クラブの方々との本物の交流ができました。

これらの活動は、私たち学校にとっても大変ありがたい支援ですが、実は地域の皆さんにとっても、子供達との心の交流として大変喜んでいただいているのです。これこそが小学校だからこそできる地域貢献の1つだと思います。

老人クラブでは、活動を活性化させるためには、「老人クラブ」という名称が足かせになっているとのことでした。65歳以上が対象となるとのことですが、私もじきに達する65歳は、今や「老人」という名称はふさわしくありません。

そこで、吉敷では、組織名を「良城クラブ」と呼ばれることになりました。公称ということですが、新しい青色の揃いのジャンパーの背中には、「良城クラブ」と書かれています。「吉敷」ではなく、「良城」というのが、私たちにとってはとても嬉しく思います。良城小の子供との交流がそのきっかけになっているものと誇らしく思います。

これからも、もっともっと交流を深め、子どももお年寄りも元気な吉敷地域となっていくことを願っています。

各学年で良城（吉敷）だからこそその活動にダイナミックチャレンジしてください。地域の方は待っておられます。



土曜日に地域交流センターで、「えがお食堂よしき」という、昼食を通して地域の人々がふれ合う場を提供する取組が行われました。3回目を迎えるこの日は、メニューが、カレーから豚丼に変わっていました。300食近い数が用意され大盛況でした。親子連れやスポ少帰りなど、本校児童もたくさん参加していました。新しい活動に取り組まれている吉敷地域はすばらしいです。

